

研究テーマ

社会における健康問題を把握するには

—統計資料による分析と調査—

研究室の紹介

当研究室では保健医療福祉分野および他学問との学際的な領域において、今日的な問題をテーマに予防のための実態把握の研究を行っています。また近代社会に起きていた問題に焦点を当て、今日的な課題解決に示唆を得るような研究も実施しています。まずは公的統計資料を用いた把握を行います。その後、必要に応じて質問紙調査を行います。人口動態統計や調査学校保健統計などの保健統計に慣れましょう。

主な研究テーマ

- 医療提供体制と病床機能転換に関する研究
- いじめ自殺の実態統計の整備

主な担当講義科目

- 保健・医療・福祉学研究特論（分担）
- 地域保健福祉学演習（分担）

研究紹介

□今日的な問題として、次の①②のようなテーマについて保健統計をもとに研究してきました。また過去にあった問題については、③④のテーマで公的な統計を用いて分析・検討を行っています。

- ①公的病院の再編統合の地域差の検討
- ②16～18歳の望まない妊娠に関する都道府県間の比較（次項で紹介します）
- ③自殺減少に影響のあったアクセス制限-昭和30年代の催眠剤自殺の検討-（反町教授と共同研究）
- ④病床機能転換の史的検討

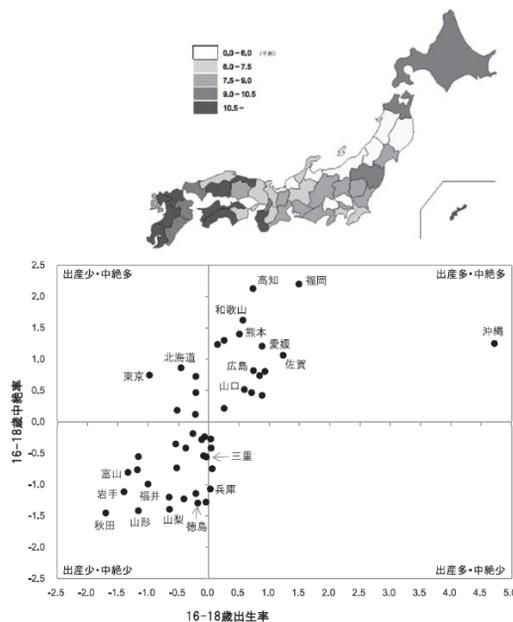
□16～18歳の妊娠・出産・人工妊娠中絶の検討

思春期の性の指標に「十代人工妊娠中絶率」があるが、この指標は15歳以下や19歳のものも含まれている。また若年女性の望まない妊娠を防ぐには、性指標について中絶だけでなく出産も加えて妊娠を把握する必要がある。

そこで、1歳階級別の出生数と中絶数を用い平成27年国勢調査年の1歳階級別女子人口で除することで16～18歳の出生率と中絶率を都道府県別に算出した。次に、出生率と中絶率を合わせた妊娠状況について地図化を行った。県間比較ではz得点を求め、出生率をX軸、中絶率をY軸とした。散布図を作成した。

その結果、妊娠状況は中国、四国、九州で高く、東北、北陸、山梨県や埼玉県で低かった。また散布図から秋田県や山形県のように出産・中絶の少ない県があった。16～18歳の妊娠が少ない秋田県や山形県は既に性教育の取り組みがなされている。先進地域の実践が全国に広がることが期待される。

瀧澤ほか、16～18歳の妊娠・出産・人工妊娠中絶の検討—統計資料を用いた都道府県間の比較—学校保健研究,60(1),41-47,2018



大学院進学を希望する方へ一言

普段の業務や日常生活の中で感じたことを、保健医療福祉分野の学問に問うてみてください。貴方にだけたどり着くことができる学術上の世界があります。また論文によって研究成果を地域社会に還元することで、得られた知見を多くの人々と共有することができます。大学院の教員は道案内の役目を果たし、またしっかり伴走してくれるでしょう。大学院では、貴方の生涯において掛け替えのない知的な体験ができます。